一般社団法人日本データベース学会　2026 年度　定時総会

【議案】

第 1 号議案　2025 年度に係る報告等

1-1.　2025 年度事業報告書

1-2.　2025 年度決算書（決議事項）

1-3.　監査報告書

第 2 号議案　2026 年度新役員選任（決議事項）

第 3 号議案　2026 年度に係る計画等

3-1.　2026 年度事業計画書

3-2.　2026 年度収支予算書

2026 年 6 月 20 日

一般社団法人　日本データベース学会

https://dbsj.org/

目　　次

【議案】

第 1 号議案 2025 年度に係る報告等　・・・・・・・　1

1-1.　2025 年度事業報告書　・・・・・・・・・・・　2

1-2.　2025 年度決算書（決議事項）　・・・・・・・　21

1-3.　監査報告書　・・・・・・・・・・・・・・・・・　27

第 2 号議案 2026 年度新役員選任（決議事項）　・・　29

第 3 号議案 2026 年度に係る計画等　・・・・・・・　33

3-1.　2026 年度事業計画書　・・・・・・・・・・・　34

3-2.　2026 年度収支予算書　・・・・・・・・・・・　48

［第１号議案］

1.2025 年度に係る報告等

1-1.　2025 年度事業報告書

1-2.　2025 年度決算書（決議事項）

1-3.　監査報告書

［第１号議案］

1-1. 2025 年度事業報告書

１．　概況
２．　会員数について
３．　会議等に関する事項
４．　実施事業１：　一般社団法人としての運営
５．　実施事業２：　若手活性化
６．　実施事業３：　会員交流
７．　実施事業４：　イベント・国際連携・学会連携
８．　実施事業５：　最強データベース講義
９．　実施事業６：　データ作法（セミナー等）
１０．実施事業７：　学生企画
１１．実施事業８：　産学連携推進
１２．実施事業９：　情報システム
１３．実施事業１０：　広報
１４．実施事業１１：　論文誌編集
１５．実施事業１２：　表彰
１６．実施事業１３：　ハラスメント防止・DE&I 推進

2025 年度事業報告

１．概況

当法人は，前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に，定款第３条に定める「データ，データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り，国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ，フットワーク軽く，産学連携，国際的協調，新領域開拓を先導し，学術，文化，産業，ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める．

2025 年度は，一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う 5 年目であった．2021 年度には各種規程を制定し，一般社団法人としての活動を開始した．2022 年度には役員を改選し会長が交代したのに伴い，委員会構成を整理し，新しい体制で学会活動を実施した．2023 年度は，より良い活動を目指して必要な制度改正，内規の整備を行い，さらなる学会発展を目指す方向性，活動について議論した．2024 年度は役員改選を行い，委員会体制を刷新し，新たな活動として若手活性化，会員交流に焦点をあて事業を推進した．2025 年度は，2024 年度の委員会体制は維持しつつ，それぞれの活動を改善しながら，活発に推進した．これにより，本会の目的にそって定款第４条第１項に定める事業を滞りなく行った．

具体的には，下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術，文化，産業，ならびに社会の発展に寄与してきた．

２．会員数について

2021 年度の定時総会までに，前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め，移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした．その後，正会員，学生会員，維持会員ともに順調に増加している．それに加えて，2021 年度より DEIM の参加者は DBSJ 会員となることができる特典を享受できるようにしたことにより，正会員数が 2022 年度は 822 名，2023 年度は 895 名，2024 年度は 944 名，2025 年度は 1022 名と会員が増加した．

2023 年度定時総会で定款を改定し，正会員を第一種と第二種に分割し，従来のフルアクセス権付正会員を第一種，フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した．従来 DBS 研，DE 研登録者はフルアクセス権付だったが，その特典を無くし，第一種正会員は年会

費を支払うこととした．ただし，DEIM 参加者は翌年度の年会費を免除する．これにより，その年度の年会費を支払ったか，前年度の DEIM に参加した正会員が第一種正会員となる．2025 年 4 月に DEIM2025 参加者から第一種正会員，学生会員への登録作業を行った．2025 年 6 月に，DEIM2025 に参加せず，2025 年度の年会費を支払わなかった第一種正会員 69 名を第二種正会員に変更した．また，学生会員でメールアドレスが不達となる会員 176 名の退会処理を行った．

2026 年 2 月 28 日から開催された DEIM2026 では，2025 年度と同様に会員価格で参加する条件として，事前に会員となることを徹底したため，参加申し込み前の入会が増加した．

名誉会員は，2024 年度までに 16 名任命されていた．2025 年度は，功労賞受賞者で既に退会されている方を探索し 5 名任命した．さらに 2025 年度功労賞受賞者 2 名を任命した．

維持会員は，2024 年度総会後に 3 社入会したが，1 社退会した．

以下に，2021 年度から 2024 年度まで各年度の総会時点と 2025 年度末（2026 年 3 月末）時点での会員数を示す．

会員種別	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2025 年度末
正会員	484 名	822 名	895 名	944 名	1022 名	1024 名
第一種				419 名	416 名	342 名
第二種				525 名	606 名	682 名
名誉会員				15 名	16 名	23 名
学生会員	74 名	503 名	750 名	989 名	1203 名	1128 名
維持会員	21 社	26 社	26 社	24 社	24 社	26 社

今後も DEIM 参加者が DBSJ 会員となることができる特典を継続するとともに，セミナーやフォーラムの機会を通じて，会員増加に努めていく．

３．会議等に関する事項

下記の会議を計画する．遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努めた．

3.1 2025 年度 定時総会

2025 年 6 月 21 日(土)に専修大学にて，ハイブリッドで開催した．

3.2 理事会および各種委員会

理事会は以下の通り，計 7 回開催した.

第 41 回はハイブリッド開催，他はオンライン開催であった.

第 37 回：2025 年 5 月 30 日(金)　第 38 回：2025 年 8 月 2 日(金)
第 39 回：2025 年 10 月 2 日(木)　第 40 回：2025 年 12 月 3 日(水)
第 41 回：2025 年 12 月 20 日(土)*　第 42 回：2026 年 2 月 2 日(月)
第 43 回：2026 年 3 月 26 日(木)

維持会員が参加する評議委員会を 2025 年 9 月 22 日(月)にハイブリッドで開催した.

役員改選の前年度にあたるので，次期会長・役員候補者及びビジョン検討 WG を 12 月から 2 月にかけて，オンラインにて 5 回開催し，次期会長候補，次期役員候補，新委員会体制を検討した.

その他各種委員会もすべてオンラインにて開催した.

4．実施事業 1：一般社団法人としての運営（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は，一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している. 日常業務を効率よく推進すると同時に，よりよくするために継続的に改善している.

【活動概要】

4.1　会員・会費制度の継続的見直し

2023 年度に改正した会員・会費制度に則った会員運営並びに会費徴収を遂行するとともに，継続的な見直しを実施している.

DBSJ 初期に活躍・貢献され，現在は退会されている方について，名誉会員として推薦するよう名誉会員の内規を改定し，5 名の方を名誉会員に選任した.

DEIM 参加の正会員は翌年度第一種正会員の年会費を免除することになっている. その対応を実施しやすいように会員 DB の機能を改修した.

4.2　委員会や組織の構成の継続的見直し

定款第 4 条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため，委員会や組織の構成を随時見直し，期中であっても柔軟に対応できるよう，必要に応じて委員会や組織の構成を変更していくための予算を計上していたが, 本年度は構成変更が発生せず,

計上していた予算は使用せずに終了した．

4.3　DBSJ 主催による各種活動の支援

DBSJ 主催活動を活性化するため，DEIM 等の DBSJ 主催の各種イベントの開催における一部経費を支援する．本年度は，会員交流委員会に予算を移管し，DEIM 開催中に実施した会員交流イベントの茶菓代を支援した．

4.4　事務局業務の円滑な遂行

事務局業務を円滑に遂行するため，事務局業務の一部委託を継続している．

また，専門的な知識が必要となる課題を解決するため，必要に応じて専門家への業務委託を実施するための予算を計上していたが，本年度は専門家への業務委託は発生しなかった．

4.5　理事交代方法改善の検討

2026 年度の役員改選に向けて，2026 年 4 月に予定されている役員選挙の準備として，2025 年度中に役員候補者を確定した．役員候補者を検討する際に，継続する委員会については，元委員長をアドバイザー，副委員長として委員会に残すことで，実施事業の継続性を担保するよう考慮した．

4.6　代議員選挙・役員選挙の実施プロセス改善

候補者の推薦・確定，選挙人の確定において，手続き上の曖昧さが残っていること，情報確認不足により，選挙を開始してから，やり直すことがこれまで何度かあった．

2026 年度の代議員選挙，役員選挙の手続きについては，間違いがないよう配慮したが，内規を制定するまでには至らなかった．

2 月に実施した代議員選挙で，選挙開始直後に，候補者一名の名前が間違っていることが判明し，選挙をやり直した．候補者情報の確認プロセスに課題を残した．4 月に実施する役員選挙では，候補者情報を Google ドキュメントで共同編集することで，候補者情報の編集ミスが極力発生しないようにした．

4.7　会計業務の継続的見直し

一般社団法人日本データベース学会は，2023 年度に消費税課税業者となった．さらに，2023 年 10 月からはインボイス制度，2024 年 1 月 1 日からは電子帳簿保存法が施行されたため，税理士法人による定期的な内部会計監査などを実施してきた．今年度も必要に応じて会計業務の継続的な見直しを実施しつつ，日々の会計業務を実施した．

4.8　本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として，本会の活動全体を定款第 4 条第 1 項の各号の内容にそって，継続的に見直しを進めている．

本年度は，来年度の役員改選による新体制を見据えて，DBSJ の今後の方向性の議論を継続的に行った．今後の方向性に対する課題をメールで募った後，9 月の WebDB 夏のワークショップ 2025 の折に，会場付近に会長・副会長・特命副会長ができるかぎり現地に集い，今後の活動方針に関する集中討議を実施した．これをベースに理事会において次期体制の活動方針に関する議論を重ねた．それを元に，次期会長・役員候補者及びビジョン検討 WG で，次期会長，次期役員候補者，委員会体制案が検討された．

５．実施事業２：若手活性化（定款第４条第１項８号）

担当：若手活性化委員会

本事業の目的は，本学会の未来を担う若手研究者の活動を活性化させるための機会を提供するものである．若手研究者が主体的に行う研究活動の事務的・金銭的支援や，若手研究者のモチベーション向上に寄与する活動を DBSJ として実施する．

【活動概要】

（１）　若手研究者によるオーガナイズドセッションの開催支援

2025 年 9 月に開催した WebDB 夏のワークショップ等において，若手研究者によるオーガナイズドセッションを募集すると共に 3 件の開催支援を行った．具体的には，招待講演者招聘費用等の金銭的サポートを行うと共に，会場手配等の事務手続きを本委員会がサポートした．

WebDB2025 オーガナイズドセッション(1)

「超高速データサイエンス」

オーガナイザ：天方大地（大阪大学）

６件の招待講演.

WebDB2025 オーガナイズドセッション(2)

「偽情報対策技術」

オーガナイザ：佐々木 佑樹，北島 信哉（富士通株式会社）

一般発表 3 件と 2 件の招待講演.

WebDB2025 オーガナイズドセッション(3)
「ファッション × 情報学」
オーガナイザ：荘司 慶行（静岡大学）
一般発表 3 件と 1 件の招待講演.

（2） 若手オーガナイズド研究イベントの研究業績(ジャーナル)化支援に関する検討
若手研究者が提案・実施する研究イベントにおける研究発表に対して，これを提案・実施した若手研究者をゲストエディタとする DBSJ 論文誌特集号の発行について，論文誌委員会と連携し検討した．2024 年度より論文誌特集号の編集・発行が可能であることを若手オーガナイザに案内したが，希望が無かったため実施は見送られた.

（3） 若手活性化事業の広報および若手の要望を抽出するための Web ページの充実化
DBSJ の Web サイトの中に既に立ち上げている, 本委員会の活動を広報するための Web ページの充実化を図った．ここでは若手オーガナイズド研究イベントの実施状況や公募情報を掲載すると共に，若手が気軽に提案できるような Web サイト運営実施した.

6．実施事業 3：会員交流（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：会員交流委員会

本事業の目的は, DB コミュニティの学生を含む若手研究者の交流を促進するための機会を提供するものである．DB コミュニティに関連する学術イベント等において，会員同士が交流出来る場を提供し，特に若手研究者同士の交流を促進することで本コミュニティの活性化に寄与することを目指す.

【活動概要】
（1） WebDB 夏のワークショップにおける交流会の開催サポート
研究発表セッション終了後に実施した 2 日間のナイトセッション（交流会）において，開催サポートを行った.

（2） DEIM オンサイト企画 BoF セッションにおけるケータリングのサポート
毎年更新される組織委員による運営を DBSJ がバックアップすることで，DEIM フォーラムにおける会員交流イベントの継続的・安定的な実施をサポートした．本件は，DEIM 内で実施するイベント企画であるためイベント委員会とも連携しながらサポー

トを行った.

（3） 会員交流促進に関する方策の継続的な検討

本学会における会員交流の促進は重要な課題である．そこで上記の活動に限らず，継続的に会員交流促進に関する方策の検討を行っている．なお，この検討は当委員会メンバー内の議論に閉じることなく，交流会の場などでも問題意識を共有することで，多くの学会会員に当事者意識を持ってもらい，今後も学会全体で検討していく．

（4） 会員促進事業の広報のための Web ページの充実化

DBSJ の Web サイトの中に既に立ち上げている，本委員会の活動を広報するための Web ページの充実化を図った．ここでは会員交流イベントの実施状況などを踏まえて随時更新した．

7．実施事業４：イベント・国際連携・学会連携（定款第４第１項１号）

担当：イベント委員会・国際連携委員会・学会連携委員会

本事業の目的は，DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため，様々な形態のイベントの企画，海外の DB コミュニティとの連携，および他学会との連携を図ることである．国内の DB コミュニティの活性化及び拡大化のためのイベントとしては，DEIM, SoC, WebDB 夏のワークショップを企画・運営する．国際連携では，ACM との連携(SIGMOD-J)，および日本と韓国(KJDB)，中国，タイ間の DB コミュニティとの連携を深める．学会連携では DBSJ と各学会の DB 系研究会との連携を深める．

【活動概要】

（イベント）

（1） データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM）

開催日時：2026 年 2 月 28 日（土）～3 月 2 日（月）オンライン：口頭発表

3 月 4 日（水）～3 月 5 日（木） オンサイト

開催場所：ZoomEvents（オンライン会場），神戸国際会議場（オンサイト会場）

論文発表：一般：445 件，技術報告：17 件

スポンサー数：28 社

プラチナ： 4 件（昨年 7 件）

ゴールド：19 件（昨年 15 件）

シルバー： 5 件（昨年 2 件）

参加者数：　901 名

（２）　　ソーシャルコンピューティングシンポジウム（SoC）
開催日時：2025 年 6 月 21 日（土）13:00-17:30, 6 月 22 日（日）10:00～12:40
開催場所：専修大学神田キャンパス 10 号館 3F 黒門ホール（ハイブリッド開催）
　　東京都千代田区神田神保町 3 丁目 4-4
参加登録者数：45 名

（３）　　WebDB 夏のワークショップ
WebDB 夏のワークショップ 2025（情報処理学会 第 181 回 データベースとデータサイエンス研究会（SIG-DBS）・情報処理学会 第 160 回 情報基礎とアクセス技術研究会（SIG-IFAT）・電子情報通信学会 データ工学研究会（DE）　合同研究会）
開催日時： 2025 年 9 月 16 日（火）13:30～17:45
　　2025 年 9 月 17 日（水）09:15～17:30
　　2025 年 9 月 18 日（木）09:15～16:10
開催場所： アクトシティ浜松コングレスセンター
　　（静岡県浜松市中央区板屋町１１１－１）2 階 21 会議室，22 会議室，23 会議室
参加人数： 132 名
発表件数 ：64 件（DBS：42 件，IFAT：7 件，DE：15 件）
　　オーガナイズドセッション内の一般発表 6 件を含む

（国際連携）
（１）　　ACM： SIGMOD-J
SIGMOD2025 国際会議報告を実施した.
開催日時：2025 年 8 月26 日（火）
開催場所：オンライン（Zoom）
参加者数：42 名

VLDB2025 国際会議報告を実施した.
開催日時：2025 年 10 月27 日（月）
開催場所：オンライン（Zoom）
参加者数：39 名

SOSP2025 国際会議報告を実施した.
開催日時：2026 年 1 月 9 日（金）
開催場所：オンライン（Zoom）

参加者数：23 名

ACM SIGMOD 日本支部 新役員構成

・支部長：	小口 正人	（お茶の水女子大学）
・副支部長：	山口 実靖	（工学院大学）
・副支部長：	豊田 正史	（東京大学）
・副支部長：	佐々木 勇和	（大阪大学）
・副支部長：	塩川 浩昭	（筑波大学）
・会計担当幹事：	北山 大輔	（工学院大学）
・庶務幹事：	斉藤 和広	（KDDI 総合研究所）

（２）　韓国： Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop （KJDB）
開催日時：2025 年 12 月 12 日(金)～14(日)
開催場所：伊勢商工会議所 大ホール
参加者数：49 名

（３）　中国
CCF-TCDB（中国计算机学会数据库专业委员会）との MOU 締結・交流会
開催日時：2025 年 6 月 21 日（土）13:00-17:30, 6 月 22 日（日）15：50～16：10
開催場所：専修大学神田キャンパス 10 号館 3F 黒門ホール（ハイブリッド開催）
東京都千代田区神田神保町 3 丁目 4-4

CCF-NDBC 参加（A3 プロジェクト）
開催日時：2025 年 8 月 2 日-8 月 4 日
開催場所：中国吉林省長春
招待講演，ワークショップを実施

（４）　タイ
タイの DB コミュニティとの連携について，具体的な連携イベントを検討中である．

８．実施事業５：最強データベース講義（定款第４条第１項１号および７号）

担当：講義委員会

本事業の目的は, DB 関連分野の各項目について, その道の第一人者ならではの「面白く」

「わかりやすい」講義コンテンツを提供し，大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である．

【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施.

(1) 講義コンテンツの作成と配信

(a) 最強データベース講義：大学院生，エンジニア，研究者を対象とした講義

(b) 最強データベース講義ベーシック：初学者（学部生）を対象とした講義

(c) 最強データベース教材：教員や企業での教育担当者を対象とした講義

(2) タグ付けや講義間の関係などの整備と公開

(3) 講義コンテンツのデータセット整備

【今年度の実績】

7 月 9 日　#37 大規模言語モデルの表データ処理活用（董于洋氏）

申込者数 137 名（学生 2，一般 135）

8 月 7 日　#38 偽情報を見抜くための自動ファクトチェック技術（北島 信哉氏）

申込者数 77 名（学生 2，一般 75）

4 月 15 日　#39-1 推薦システム｜基礎編（奥健太先生）

申込者数 71 名（学生 4，一般 67）

4 月 23 日　#39-2 推薦システム｜評価編（奥健太先生）

申込者数 53 名（学生 3 名，一般 50）

- connpass グループ登録者数(2025 年 5 月 8 日現在)：2188 名
- Youtube チャンネル登録者数(2025 年 5 月 8 日現在)：8830 名

- 講義コンテンツの検索システム開発：現在テスト実施中．2026 年夏公開予定.

9．実施事業 6 ：データ作法(セミナー等)（ｊ第 1 項 1 号及び 5 号）

担当：セミナー委員会

本事業の目的は，セミナーを通じて，研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し，法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである．

【活動概要】
当委員会では下記のように 3 回のセミナーを実施した．なお，第 2 回 DBSJ セミナーおよび第 3 回 DBSJ セミナーはハイブリッド開催とした．

第 1 回 DBSJ セミナー
2025 年 10 月 4 日(土) 13:00-17:00，オンライン
「万博の事例も！オープンデータ活用の研究と個人情報保護の最新動向」
講演 1：アカデミア・企業の研究開発と個人情報保護法
　　柿沼太一氏(弁護士法人 STORIA 法律事務所代表パートナー弁護士)
講演 2：大阪・関西万博におけるデータ利活用の取り組み
　　大嵩豪朗氏(公益社団法人２０２５年日本国際博覧会協会 ICT 局担当課長)
講演 3：オープンデータを活用した万博を楽しむ事例紹介
　　坂ノ下勝幸氏(諸国・浪漫/Code for OSAKA/OpenStreetMap Foundation Japan 所属)
パネルディスカッション：
　　モデレータ　木俵豊(DBSJ 理事)
　　柿沼太一氏，大嵩豪朗氏，坂ノ下勝幸氏

第 2 回 DBSJ セミナー
2025 年 12 月 20 日(土)13:00-17:00，ハイブリッド(追手門学院大学総持寺キャンパス)
「そのデータは本当に安全？生成 AI と著作権最新動向」
講演 1：生成 AI と著作権～研究者が注意すべき問題と今後の課題～
　　柿沼太一氏(弁護士法人 STORIA 法律事務所代表パートナー弁護士)
講演 2：生成 AI 時代における AI データ・プラットフォームとしてのデータベース
　　下道高志氏(日本オラクル株式会社)
講演 3：さくらの AI と国産 AI 共創戦略
　　角俊和氏(さくらインターネット株式会社)
パネルディスカッション：
　　モデレータ　横田治夫氏(DBSJ 会長)
　　柿沼太一氏，下道高志氏，角俊和氏，木俵豊氏(DBSJ 理事)

第 3 回 DBSJ セミナー
2026 年 3 月 4 日(水) 9:30-12:30，ハイブリッド(神戸国際会議場)
「研究データの公開・共有・ライセンスと法的課題」
講演 1：研究データ公開の法的留意点
　　古川直裕氏(株式会社 ABEJA 所属　弁護士，スクラムマスター)

講演 2：NII-IDR における研究データの公開事例について
　　大須賀智子氏(国立情報学研究所 特任研究員)
パネルディスカッション：
　　モデレータ　横田治夫氏(DBSJ 会長)
　　古川直裕氏，大須賀智子氏，金京淑氏(DBSJ 理事)，平手勇宇氏(DBSJ 副会長)

１０．実施事業７：学生企画（定款第４条第１項３号）

担当：企画委員会

本事業の目的は，本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし，学生自身が活躍できる機会を提供するものである．学生自身が関心を寄せるトピックを中心に，学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう，DBSJ として支援する．本事業は，「実施事業２：若手活性化」，および「実施事業８：産学連携推進」と関係するため，これらの事業と連携し推進する．

【活動概要】
2025 年 6 月～7 月に学生企画の運営委員会を発足させ，8 月より企画の検討を開催，下記 2 件の学生企画イベント開催のサポートを実施した．

(1) DBSJ 学生企画第 16 弾（オンサイト・対面のハイブリッド形式）
- タイトル：進学？就職？研究？起業？ ― 多様なキャリアから学ぶ現代の就活術 ―
- 日時：2025 年 11 月 21 日（金）　18:30-19:30
- URL：https://dbsj.org/events/event_info/event_20251121/
- 開催形式：Zoom，対面のハイブリッド形式
- 会場：〒101-8439　東京都千代田区一ツ橋 2-1-2　学術総合センター内 一橋大学 一橋講堂 会議室 203
- 内容：企業研究者，大学教員など登壇者としておよびし，本会学生会員の方が多様なキャリアパスの実例を知っていただいた．これにより，参加者自身のキャリア選択の視野を広げ，キャリアに迷う学生が安心して相談できる場を提供した．
- オンサイトでの参加者：20 名

(2) DBSJ 学生企画第 17 弾（産学連携委員会との合同企画）

- タイトル：研究ライフをＮ倍ブチ上げるためにキミたちはどうしますか
- 日時：2026 年 3 月 4 日（水）17:30 ～ 18:30
- URL：https://pub.confit.atlas.jp/ja/event/deim2026/content/bof
- 会場：DEIM2026 会場（神戸国際展示場）
- 内容：本会学生会員が，研究活動における悩みを共有し，その解決方法を議論し共有する場を提供することで，本会学生会員の研究活動促進への貢献，および本会学生会員間の関係性構築への貢献を目指した. 研究活動でどのように AI を使っていくのか，指導教員とのコミュニケーション，後輩学生との接し方，ワークライフバランスの保ち方など, 学生会員からリアルに提示された「悩み」について，学生間で議論を行った.
- 参加人数：100 を超える参加者

１１．実施事業８：産学連携推進（定款第４条第１項３号）

担当：産学連携委員会

本事業の目的は，産学間，さらには産産間における技術的な情報の共有，人的な交流を促進することで，データ工学に関連する産業全体の発展を目指すことにある．本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ，あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し，それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催，それらの場を通じた交流を図る．

【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に，研究を通じて人的交流も図る．

・東芝デジタルソリューションズ：GridDB Enterprise Edition

→2 件の利用申請があり，それぞれを承認，研究に活用いただいた．

(2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）

情報学研究データリポジトリ（以下 IDR）は，国立情報学研究所（NII）のデータセット共同利用研究センター（DSC）が運営する研究用データセットの共同利用事業であり，本会産学連携委員会の連携先事業である．当該事業の IDR ユーザフォーラムは，研究用データセットの提供者と利用者が意見交換をするための年次イベントであり，2025 年 11 月 26 日（水）に一橋講堂にて開催され，本会も後援した．

（https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/2025.html）

IDR ユーザフォーラム 2025 での研究発表の中から，下記の発表に対し DBSJ 特別賞を授与し，DEIM2026 への招待を行った．

・込山湧士氏（東北大学）

・タイトル：オンラインフリーマーケット市場への生存時間分析の応用

・ポスター原稿：https://www.nii.ac.jp/dsc/idr/userforum/poster/IDR-UF2025_P21.pdf

(3) 産学連携マッチング促進のための取り組み

産学連携マッチングの促進を目的として，SoC2025 にて下記のパネルディスカッションを開催した．

- 開催日：2025 年 6 月 21 日(土)　14:10-15:00
- テーマ：インターンシップのリアル：企業と大学の本音，より良い未来への対話
- 実施形態：パネルディスカッション
- パネリスト：
  - 藤原靖宏（日本電信電話株式会社）
  - 劉健全（日本電気株式会社）
  - 小口正人（お茶の水女子大学）
- モデレータ：平手勇宇（楽天グループ株式会社）

(4) DBSJ 維持会員フォローアップに関する取り組み

DBSJ 維持会員プログラム・DIEM スポンサープログラムに関する意見を，DBSJ 維持会員および DEIM2025 スポンサー企業から伺い，各プログラムに反映させるために，DBSJ 関連企業意見交換会を開催した．DEIM ランチョンセミナーの事前告知等，いただいた意見を DIEM2026 スポンサープログラムに反映させた．

- 開催日時：　2025 年 10 月 28 日（火）　17:00～21:00
- 会場：　：八重洲倶楽部 貸会議室（第 7 会議室）※ハイブリッドで開催
- 参加者：
  - 15 名（オンサイト）＋10 名（オンライン）
  - DBSJ 会長，DBSJ 産学連携委員会，DBSJ 総務委員会
  - DEIM 実行委員長・プログラム委員長，産学連携委員会
- アジェンダ：
  - １．　DBSJ 会長・DEIM2026 産学連携委員長からの挨拶
  - ２．　DEIM2026 スポンサープログラムのご説明
  - ３．　DEIM2026 スポンサープログラムに向けてのディスカッション
  - ４．　DBSJ 産学連携一般に関するディスカッション

１２．実施事業９：情報システム（定款第４条第１項６号）

担当：情報システム委員会

本事業の目的は，会員データベースシステム，会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて，本会ホームページなどの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い，本会の運営をサポートすることである．

【活動概要】
(1) Web・会員 DB の運用・維持
本会 Web ページや会員データベースシステムについて安定した運用と維持管理を実施した．
また Web ページのサーバ移行やコンテンツのバックアップについて検討した．
(2) メーリングリストの移行
メールサーバの移行について実施計画を整理した．
(3) BOX の管理
本会理事会 HP の BOX 移行に伴い管理を実施した．

１３．実施事業１０：広報（定款第４条第１項２号）

担当：広報委員会

本事業の目的は，国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである．

【活動概要】
(1) News Letter の刊行
2025 年度は以下の News Letter を発行した．News Letter は従来のメール配信だけでなく，本会の Web ページでも，Web ページの体裁に合わせた形式で写真なども付けて掲載した．

・4 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 4 月号（Vol. 18, No. 1）発行
（DEIM2025 開催報告, AAAI2025, BigComp2025 参加報告）
・5 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 5 月号（Vol. 18, No. 2）発行
（日本データベース学会受賞特集号）
・6 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 6 月号（Vol. 18, No. 3）発行

（ECIR2025, SDM2025, ICISSP2025, WWW2025 参加報告）
・8 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 8 月号（Vol. 18, No. 4）発行
（ICWSM 2025, CVPR 2025 参加報告，NTCIR-18 開催報告）
・10 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 10 月号（Vol. 18, No. 5）発行
（ICML 2025, SPIRE 2025, IJCAI 2025 参加報告）
・11 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 11 月号（Vol. 18, No. 6）発行
（若手研究者対談企画号）
・12 月 1 日：DBSJ Newsletter 2025 年 12 月号（Vol.18, No. 7）発行
（RecSys2025, ADMA2025 参加報告）
・2 月 1 日：DBSJ Newsletter 2026 年 2 月号（Vol.19, No. 1）発行
（VLDB2025, SOSP2025 参加報告）

１４．実施事業１１：論文誌編集（定款第４条第１項２号）

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は，論文誌の発行を通じて，データベース，メディアコンテンツ，情報マネジメント，ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り，もって学術，文化，ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである．

【活動概要】
日本データベース学会論文誌（和文・英文）および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行した．

（１） 日本データベース学会論文誌（和文・英文）の発行
（ア）自由投稿論文および DEIM 2025 からの推薦論文を対象
（イ）和文論文誌（Vol. 24-J）の発行
和文論文誌に論文 12 編を採録した．今年度は英文誌の発行はなかった．

（２） 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行
（ア）Vol. 4 の発行
論文 5 編を採録した．

（３） 論文賞受賞論文の選定
2024 年度に投稿された論文の中から以下の論文を論文賞に選定した．
釣谷周平，松原靖子，水谷雅巳，佐藤正彦，櫻井保志，「時系列解析によるエンジン主軸受の摩耗予測」，日本データベース学会データドリブンスタディーズ, Vol.3, Article No.2, 2025 年 3 月

（４）　論文誌規程を改訂し新たにレターを設けた．

１５．実施事業１２：表彰（定款第４条第１項８号）

担当：表彰委員会

本事業では，功労賞，若手功績賞，上林奨励賞，業績賞を選定し，表彰を行う．

【活動概要】

１．dbjapan において，若手功績賞，上林奨励賞，業績賞に関する推薦依頼を行った．

２．表彰委員会を立ち上げ各賞の選定を行い，DEIM 2026 にて表彰式を開催した（2026 年３月５日）．

今年度の受賞者は以下の通り．

功労賞	大山　敬三　氏
	土田　正士　氏
若手功績賞	上田　高徳　氏
	王　元元　氏
	豊田　真智子　氏
	山本　岳洋　氏
	若林　啓　氏
上林奨励賞	山田　真也　氏
	新井　淳也　氏
	Imrattanatrai Wiradee　氏
業績賞	株式会社リクルート

１６．実施事業１３：ハラスメント防止・DE&I 推進（定款第４条第１項４号及び８号）

担当：ハラスメント防止・DE&I 推進委員会

本事業の目的は，DBSJ 内のダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョンを推進し，ハラスメントを防止するための活動を通して，DBSJ に関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り，各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである．

昨年度まで委員会名および実施事業名に D&I（ダイバーシティ＆インクルージョン）を使っていたが，最近一般によく使われるようになってきた DE&I（ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン）に変更した.

【活動概要】

DEIM を中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施した.

- ハラスメント防止委員会

  DEIM 等の主催・共催・講演イベントでのハラスメント防止活動

［第１号議案］

1-2. 2025 年度決算書（決議事項）

1. 貸借対照表

2. 正味財産増減計算書

3. 財務諸表における注記

4. 附属明細書

5. 財産目録

1. 賃借対照表

貸　借　対　照　表

2026年3月31現在

一般社団法人日本データベース学会
（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金預金	65,175,009	60,741,115	4,433,894
未収入金	100,000	38,500	61,500
立替金	0	3,000,000	△3,000,000
流動資産合計	65,275,009	63,779,615	1,495,394
2　固定資産			
ソフトウェア	1,391,500	1,897,500	△506,000
固定資産合計	1,391,500	1,897,500	△506,000
資産合計	66,666,509	65,677,115	989,394
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金	665,945	1,414,013	△748,068
未払費用	244,230	118,850	125,380
前受金	63,000	87,000	△24,000
預り金	121,555	52,454	69,101
流動負債合計	1,094,730	1,672,317	△577,587
2　固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	1,094,730	1,672,317	△577,587
Ⅲ　正味財産の部			
1　指定正味財産		0	0
2　一般正味財産	65,571,779	64,004,798	1,566,981
正味財産合計	65,571,779	64,004,798	1,566,981
負債および正味財産合計	66,666,509	65,677,115	989,394

2．正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

一般社団法人日本データベース学会
令和7年4月1 日～令和8年3月31日まで
(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
論文収入	759,000	500,500	258,500
2023年度論文収入	0	115,500	△ 115,500
2024年度論文収入	0	385,000	△ 385,000
2025年度論文収入	759,000	0	759,000
受取会費	4,444,000	4,526,000	△ 82,000
維持会員費受取金	4,150,000	4,250,000	△ 100,000
正会員受取会費	294,000	276,000	18,000
参加費・寄付金	17,470,003	16,993,800	476,203
DEIM参加費・論文投稿費	11,511,500	10,183,800	1,327,700
DEIM協賛金	5,877,000	5,810,000	67,000
受取寄付	81,503	1,000,000	△ 918,497
受託研究	0	0	0
基本財運用収入	119,486	34,266	85,220
雑収益	11,200	354,497	△ 343,297
雑損失	0	△ 480,400	480,400
経常収益計	22,803,689	21,928,663	875,026
(2)経常費用			
事業費	13,924,594	10,932,301	2,992,293
給料手当	829,877	462,808	367,069
福利厚生費	0	0	0
業務委託費	0	0	0
謝金	482,964	328,644	154,320
印刷製本費	0	0	0
会議費	9,641,338	8,076,088	1,565,250
旅費・交通費	855,753	336,950	518,803
交際費	1,134,871	574,293	560,578
通信運搬費	542,541	644,995	△ 102,454
消耗品費	80,922	52,325	28,597
支払手数料	355,728	365,448	△ 9,720
租税公課	600	0	600
衛生費	0	0	0
広告宣伝費	0	90,750	△ 90,750
管理費	7,242,114	7,529,008	△ 286,894
給料手当	1,053,000	1,083,918	△ 30,918
業務委託費	2,640,000	2,640,000	0
会議費	28,475	23,375	5,100
交際費	4,200	94,675	△ 90,475
旅費・交通費	108,854	9,040	99,814
通信運搬費	703,481	976,852	△ 273,371
消耗品費	53,716	20,207	33,509
修繕費	0	0	0
地代家賃	17,820	18,480	△ 660
租税公課	467,398	489,547	△ 22,149
支払手数料	13,970	21,714	△ 7,744
支払寄付金	15,000	15,000	0
広告宣伝費	396,000	396,000	0
雑費	0	0	0
支払報酬	1,234,200	1,234,200	0
減価償却費	506,000	506,000	0
経常費用計	21,166,708	18,461,309	2,705,399
当期経常増減額	1,636,981	3,467,354	△ 1,830,373

2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
固定資産売却（除却）損	0	0	0
前期損益修正損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	1,636,981	3,467,354	△ 1,830,373
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	1,566,981	3,397,354	△ 1,830,373
一般正味財産期首残高	64,004,798	60,607,444	3,397,354
一般正味財産期末残高	65,571,779	64,004,798	1,566,981
II 指定正味財産増減の部			
(1)収益	0	0	0
収益計	0	0	0
(2)費用	0	0	0
費用計	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	65,571,779	64,004,798	1,566,981

３．財務諸表における注記

3-1. 重要な会計方針

（１） 会計基準

財務諸表は，公益法人会計基準に則って報告しています.

（２） 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準および評価方法は先入先出し法による原価法によります.

（３） 固定資産の減価償却方法

固定資産の減価償却は法人税法で定める定額法によります．なお，取得価格が 30 万円未満のものについては費用処理しています.

（４） 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込み方式によっています.

3-2. 特定資産財源の増減額および残高

特定資産に該当する資産がないため，計上しておりません.

3-3. 補助金等の内訳ならびに交付者，当期の増減額及び残高

補助金に該当するものがなかったため，計上しておりません.

以上

４．附属明細書

４－１．特定資産の明細

特定資産に該当するものがないため，記載しません.

5．財産目録

財産目録

（2026 年3月31日現在）

（単位：円）

貸借対照表科目		場所	使用目的	金額
流動資産				
	現金預金			
	現金	手許保管	運転資金に充てるもの	26,012
	預金	三井住友銀行　小石川支店	運転資金に充てるもの	41,475,696
		三井住友銀行　小石川支店	国際会議基金	13,915,134
		三井住友銀行　小石川支店	事業積立金	9,758,167
			（普通預金口座計）	65,148,997
			（現金預金口座計）	65,175,009
	未収入金			
		リクルート	DEIM2026ランチョンセミナー代	100,000
流動資産合計				65,275,009
固定資産				
	有形固定資産			
	無形固定資産			
		横山電算機	新規会員データベース構築・改修	1,391,500
固定資産合計				1,391,500
資産合計				66,666,509
流動負債				
	未払金			
		千代田都民税事務所	法人都民税	70,000
			消費税	427,900
		Adobe	事務局Adobe月額利用料	1,848
		株式会社ABEJA　古川　直裕	第３回DBSJセミナー登壇謝金・交通費	102,080
		甲南大学　灘本　明代	中国交流会　精算不足分	100
		Zoom	DEIM2025　Zoomイベント人数超過料金など	58,875
		GMO	GMO　システム利用料3月分	5,142
	未払費用	三井倉庫など	給料手当・家賃など	244,230
	前受金	会員	2026年度DBSJ年会費へ充当	63,000
	預り金	小石川税務署	源泉徴収	121,555
流動負債合計				1,094,730
負債合計				1,094,730
正味財産合計				65,571,779

［第 1 号議案］

1-3. 監査報告書

2026年5月22日

一般社団法人　日本データベース学会
代表理事　横田 治夫殿　藤原 真二殿

監事　中野美由紀
監事　　山名早人

私たち監事は、一般法人法第99条第1項及び一般社団法人日本データベース学会定款第25条第1項の規定に基づく監査報告を行うため、一般社団法人日本データベース学会の2025年度（2025年4月1日から2026年3月31日）の事業報告、計算書類、これらの付属明細書、その他理事の職務執行の監査を実施いたしました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各幹事は理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報収集及び監査の環境の整備に努めると共に、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からもその職務の執行状況について、必要に応じて説明を求め、重要な方決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法にもとづき、当該事業年度に係る事業報告書及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1)　事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく示しているものと認めます。

(2)　理事の職務の遂行に関し、不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

(3)　当法人の業務の適性を確保するために必要な体制の整備等について理事会の決議の内容は相当です。

(4)　計算書類及び附属明細書並びに財産目録等は当法人の財産及び損益の状態を全ての重要な点において適性に表示しているものと認めます。

以上

［第 2 号議案］

2. 2026 年度新役員選任（決議事項）

新役員の選任

定款第 23 条により、役員が本定時総会の終結と同時に任期満了退任となるので、2026 年 4 月に実施された役員改選選挙を踏まえ、下記の候補者をそれぞれ選任することにしたい。

記

理事（40 名）：

吉川 正俊	大阪成蹊大学
天笠 俊之	筑波大学
石川 佳治	名古屋大学
上田 真由美	追手門学院大学
牛尼 剛聡	九州大学
榎 美紀	日本アイ・ビー・エム株式会社
大塚 真吾	神奈川工科大学
小口 正人	お茶の水女子大学
鬼塚 真	大阪大学
小山 聡	名古屋市立大学
柿沼 太一	STORIA 法律事務所
金松 基孝	株式会社東芝
河合 由起子	関西大学
北島 信哉	富士通株式会社
木俵 豊	情報通信研究機構
金 京淑	産業技術総合研究所
倉島 健	NTT 株式会社
倉林 修一	株式会社 Cygames
合田 和生	東京大学
小杉 尚子	専修大学
櫻井 一貴	株式会社リクルート
佐々木 史織	武蔵野大学
佐々木 洋平	日本電気株式会社
下道 高志	日本オラクル株式会社
清水 敏之	九州大学
鈴木 伸崇	筑波大学
角谷 和俊	関西学院大学
戸田 浩之	横浜市立大学
豊田 正史	東京大学

中島 伸介	京都産業大学
灘本 明代	甲南大学
日原 健	株式会社リコー
平手 勇宇	楽天グループ株式会社
藤原 真二	株式会社日立製作所
馬 強	京都工芸繊維大学
宮崎 純	東京科学大学
森嶋 厚行	筑波大学
吉田 尚史	駒澤大学
若宮 翔子	奈良先端科学技術大学院大学
渡辺 知恵美	筑波技術大学

監事（2 名）：

中野美由紀	情報・システム研究機構
山名早人	早稲田大学

注）総務担当副会長、副会長、特命副会長は、本総会直後に開催の新体制理事会にて選定する。

参考：役員が本定時総会の終結と同時に任期満了退任する役員

会長　　1 名　　横田 治夫（城西大学）
総務担当副会長　1 名　　藤原 真二（株式会社日立製作所）
副会長　5 名　　角谷 和俊（関西学院大学），平手 勇宇（楽天グループ株式会社），
若宮 翔子（奈良先端科学技術大学院大学），
吉川 正俊（大阪成蹊大学），渡辺 知恵美（筑波技術大学）
特命副会長 2 名　上田 真由美（追手門学院大学），中島 伸介（京都産業大学）
理事 29 名
天笠 俊之（筑波大学），石川 佳治（名古屋大学），
大塚 真吾（神奈川工科大学），小口 正人（お茶の水女子大学），
鬼塚 真（大阪大学），小山 聡（名古屋市立大学），
柿沼 太一（STORIA 法律事務所），河合 由起子（関西大学），
木俵 豊（情報通信研究機構），金 京淑（産業技術総合研究所），
小杉 尚子（専修大学），佐々木 史織（武蔵野大学），鈴木 伸崇（筑波大学），
豊田 正史（東京大学），灘本 明代（甲南大学），馬 強（京都工芸繊維大学），
宮崎 純（東京科学大学），森嶋 厚行（筑波大学），横山 昌平（東京都立大学），
吉田 尚史（駒澤大学），榎 美紀（日本アイ・ビー・エム株式会社），
金政 泰彦（富士通株式会社），金松 基孝（株式会社東芝），
倉島 健（NTT 株式会社），倉林 修一（株式会社 Cygames），
櫻井 一貴（株式会社リクルート），佐々木 洋平（日本電気株式会社），
下道 高志（日本オラクル株式会社），日原 健（株式会社リコー）
監事　　2 名　　中野 美由紀（情報・システム研究機構），山名 早人（早稲田大学）

［第 3 号議案］

3. 2026 年度に係る計画等

3-1.　2026 年度事業計画書

3-2.　2026 年度収支予算書

［第 3 号議案］

3-1. 2026 年度事業計画書

１．　概況
２．　会員数について
３．　会議等に関する事項
４．　実施事業１：　一般社団法人としての運営
５．　実施事業２：　一般社団法人としての財務運営
６．　実施事業３：　将来構想
７．　実施事業４：　DEIM 運営
８．　実施事業５：　企画
９．　実施事業６：　国際連携
１０．実施事業７：　セミナー・講義
１１．実施事業８：　産学連携推進
１２．実施事業９：　情報システム
１３．実施事業１０：　広報
１４．実施事業１１：　論文誌編集
１５．実施事業１２：　表彰
１６．実施事業１３：　ハラスメント防止・DE&I 推進

2026 年度事業計画書

１．概況

当法人は，前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に，定款第３条に定める「データ，データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り，国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ，フットワーク軽く，産学連携，国際的協調，新領域開拓を先導し，学術，文化，産業，ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める．

2026 年度は，一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う 6 年目となる．2021 年度には各種規程を制定し，一般社団法人としての活動を開始した．2022 年度には役員を改選し会長が交代したのに伴い，委員会構成を整理し，新しい体制で学会活動を実施した．2023 年度は，より良い活動を目指して必要な制度改正，内規の整備を行い，さらなる学会発展を目指す方向性，活動について議論した．2024 年度は役員改選を行い，委員会体制を刷新し，新たな活動として若手活性化，会員交流に焦点をあて事業を推進した．2025 年度は，2024 年度の委員会体制を維持しつつ，それぞれの活動を改善しながら推進した．2026 年度は，役員改選を行い，委員会を統合・廃止により整理する．また将来構想委員会を設立し，中長期を見据えた学会の方向性を検討する．これにより，本会の目的にそって定款第４条第１項に定める事業を滞りなく行っていく．

具体的には，下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術，文化，産業，ならびに社会の発展に寄与する．

２．会員数について

2021 年度の定時総会までに，前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め，移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした．その後，正会員，学生会員，維持会員ともに順調に増加している．それに加えて，2021 年度より DEIM の参加者は DBSJ 会員となることができる特典を享受できるようにしたことにより，正会員数が 2022 年度は 822 名，2023 年度は 895 名，2024 年度は 944 名，2025 年度は 1022 名と会員が増加した．

2023 年度定時総会で定款を改定し，正会員を第一種と第二種に分割し，従来のフルアクセス権付正会員を第一種，フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した．従来 DBS

研，DE 研登録者はフルアクセス権付だったが，その特典を無くし，第一種正会員は年会費を支払うこととした．ただし，DEIM 参加者は翌年度の年会費を免除する．これにより，その年度の年会費を支払ったか，前年度の DEIM に参加した正会員が第一種正会員となる．2025 年 4 月に DEIM2025 参加者から第一種正会員，学生会員への登録作業を行った．2025 年 6 月に，DEIM2025 に参加せず，2025 年度の年会費を支払わなかった第一種正会員 69 名を第二種正会員に変更した．また，学生会員でメールアドレスが不達となる会員 176 名の退会処理を行った．

2026 年 2 月 28 日から開催された DEIM2026 では，2025 年度と同様に会員価格で参加する条件として，事前に会員となることを徹底したため，参加申し込み前の入会が増加した．

名誉会員は，2024 年度までに 16 名任命されていた．2025 年度は，功労賞受賞者で既に退会されている方を探索し 5 名任命した．さらに 2025 年度功労賞受賞者 2 名を任命した．

維持会員は，2025 年度総会後に 3 社入会したが，1 社退会した．

以下に，2021 年度から 2025 年度まで各年度の総会時点と 2025 年度末（2026 年 3 月末）時点での会員数を示す．

会員種別	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2025 年度末
正会員	484 名	822 名	895 名	944 名	1022 名	1024 名
第一種				419 名	416 名	342 名
第二種				525 名	606 名	682 名
名誉会員				15 名	16 名	23 名
学生会員	74 名	503 名	750 名	989 名	1203 名	1128 名
維持会員	21 社	26 社	26 社	24 社	24 社	26 社

今後も DEIM 参加者が DBSJ 会員となることができる特典を継続するとともに，セミナーやフォーラムの機会を通じて，会員増加に努めていく．

３．会議等に関する事項

下記の会議を計画する．遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努める．

3.1 2026 年度 定時総会

2026 年 6 月 20 日(土)に開催する．

3.2 理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とするが，必要に応じてリアル会場を交えたハイブリッド開催を行う．

理事会は年度内に 6 回以上開催し，学会活動に関する諸事項を審議する．
各種委員会は必要に応じて開催し，諸活動における諸事項を審議する．

４．実施事業１：一般社団法人としての運営（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：総務委員会

総務委員会は，一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している．日常業務を効率よく推進すると同時に，よりよくするために継続的に改善している．
活動概要では，今年度の改善項目を挙げている．

【活動概要】

4.1　会員・会費制度の継続的見直し

2023 年度に改正した会員･会費制度に則った会員運営並びに会費徴収を遂行するとともに，継続的な見直しを実施する．

4.2　委員会や組織の構成の継続的見直し

定款第 4 条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため，委員会や組織の構成を随時見直し，期中であっても柔軟に対応できるよう，必要に応じて委員会や組織の構成を変更していく．その対応をするための予算を計上する

4.3　事務局業務の円滑な遂行

事務局業務を円滑に遂行するため，事務局業務の一部委託を継続する．
DBSJ 最大のイベントである DEIM の事務局支援体制を検討する．
また，専門的な知識が必要となる課題を解決するため，必要に応じて専門家への業務委託を実施する．

4.4　代議員選挙・役員選挙の実施プロセス改善

代議員選挙，役員選挙の手続きを内規として制定することで，選挙が確実に実施されることを目指す．

4.5　本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として，本会の活動全体を定款第 4 条第 1 項の各号の内容にそって，継続的に見直しを進めていく．

5．実施事業２：一般社団法人としての財務運営（定款第４条第１項８号）

担当：財務委員会

財務委員会は，一般社団法人日本データベース学会の財務運営を円滑に進めることを目的に活動している．日常業務を効率よく推進すると同時に，よりよくするために継続的に改善している．

【活動概要】

5.1　会計業務の継続的見直し

一般社団法人日本データベース学会は，2023 年度に消費税課税業者となった．さらに，2023 年 10 月からはインボイス制度，2024 年 1 月 1 日からは電子帳簿保存法が施行されたため，外部の税理士法人による定期的な内部会計監査を実施している．

今年度も必要に応じて会計業務の継続的な見直しを実施する．

5.2　予算計画策定

年度末（2027 年 3 月末）までに，2026 年度予算実行状況を踏まえ，2027 年度事業計画を実施するための予算案を策定する．

2025 年度は運転資金の繰越金が 40,000 千円を超える．繰越金は年間収入程度が適正であると考え，20,000 千円を事業積立金に移行する．

国際会議準備金，事業積立金で，当面支出予定がない預金を定期預金とする．2026 年度は，国際会議準備金から 10,000 千円，事業積立金から 25,000 千円を定期預金とする．

5.3　財務運営の日常業務

一般社団法人日本データベース学会の財務が健全に運営されるよう定常業務を着実に行う．

1.　予算執行状況を管理し，必要な予算が適切に使用されていることを管理する．
2.　各委員会から予算外の経費が要求された場合は，理事会に諮り，承認を得る．
3.　日々の入出金処理を着実に行い，会計システムへ登録，収支報告書の更新を随

時行う．

4. 理事会で収支報告を行う．
5. 四半期毎に，税理士法人による内部会計監査を実施し，不具合が指摘された場合は速やかに訂正し，理事会で報告する．

６．実施事業３：将来構想（定款第４条第１項８号）

担当：将来構想委員会

本事業の目的は，日本データベース学会の将来に向けた持続的な発展とコミュニティ活性化を実現するための基盤を構築することである．若手活性化委員会および会員交流委員会の取り組みを継承・発展させつつ，若手研究者支援，会員間の交流促進，学会の価値向上と会員増に向けた施策の検討を行う．また，学会内で新たに活動する研究会の企画・設置を含め，多様な研究者が継続的に参画できる環境を整備することで，DB コミュニティ全体の将来像を描き，その実現に向けた戦略的取り組みを推進する．

【活動概要】

（１） 国内研究イベントにおける交流会の開催

研究発表セッション終了後にアルコールの提供を伴う交流会を開催する（アルコールの提供量を制限するなどハラスメント事案にならないよう最大限の注意を払う）．
また，交流会においても，会員交流促進の重要性を参加者に共有し，DBSJ における会員交流の在り方についても意見交換を行う．本件に関しては，DBS 研や DE 研とも連携する必要があることから，企画委員会とも連携しながら検討・実施する．

（２） DEIM における会員交流イベントの開催サポート

DEIM オンサイト企画時のケータリングサービス等を DBSJ がバックアップすることで，DEIM における会員交流イベントの継続的・安定的な実施をサポートする．本件は，DEIM 内で実施するイベント企画であるため DEIM 運営委員会とも連携しながらサポート方法について検討する．

（３） 研究会設置に関する検討および試験的運用

本学会正会員が発起人として立ち上げる研究会設置に関する検討を行うと共に試験的な運用を行う．各年度内の時限的な設置とし，会場費や講演者招聘費等に使える運営費（10 万円程度）を補助する．年度内に最低１回の研究会の実施，もしくは本会が主催または協賛する研究イベント（WebDB や DEIM など）におけるスペシャルセッシ

ョンの実施を義務とする．運営においては，DEIM 運営委員会および企画委員会と連携しながら検討する．

（4） 若手研究者に魅力ある会員特典の検討

本学会の第一種会員の増加（減少抑制）を実現するため，大学および大学院卒業後の若手研究者にとって魅力ある会員特典を検討する．第一種会員の若手研究者に魅力ある DEIM イベント（ネットワーキング），学会が認定するデジタルバッジ（ラベリング），DEIM コメンテータへの推薦など，魅力ある会員特典について幅広く検討する．

（5） その他日本データベース学会の将来に向けた検討

日本データベース学会の将来に向けた持続的な発展とコミュニティ活性化を実現するための方策について，継続的に検討する．本件は非常に重要な課題であるため，適宜，理事会メンバーとも連携しながら検討する．

7．実施事業 4 ：DEIM 運営（定款第 4 条第 1 項 1 号）

担当：DEIM 運営委員会

本事業の目的は，データ工学および情報マネジメント分野に関する研究成果の発表と議論の場を提供し，研究者間の情報交換および人的交流を促進することである．特に学生や若手研究者を含む幅広い参加者が活発に議論できるコミュニティ形成を重視し，日本のデータ工学研究分野の発展に寄与することを目指す．そのため，口頭発表に加えてポスター発表，招待講演，チュートリアル，ネットワーキング等を組み合わせたフォーラムとして継続的に開催する．開催形態についてはオンラインと対面の利点を活かしつつ，研究コミュニティの活性化と参加機会の拡大を両立する形で柔軟に運営する．

【活動概要】

（1）DEIM2027 の開催：2027 年 2 月末から 3 月初頭の日程で，データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM2027）を開催する．

（2）開催形態：DEIM2026 までの形態を引き継ぎ，口頭発表をオンラインで実施し，その後ポスター発表，招待講演，チュートリアル，ネットワーキング（BoF 等）を対面で実施する直列型ハイブリッド形式で開催する．

（3）研究発表およびコミュニティ交流の促進：口頭発表，ポスター発表，招待講演，チュートリアル等を通じて研究成果の発表と議論の場を提供するとともに，ネットワーキング等を通じて参加者間の交流を促進する．

（4）開催日程・企画・発信の見直し：日程構成や発表形式の見直しに加え，DEIM のサブタイトル，関連キーワード，広報方針等について検討を行い，データサイエンスや人工知能を含む周辺領域との接点を意識しつつ，企業を含む多様な参加者に訴求する企画内容へ反映する．

（5）DBSJ アワーの開催：例年通り DEIM 期間中に開催する．

８．実施事業５：企画（定款第４条第１項１号）

担当：企画委員会

本事業の目的は，DB コミュニティの発展と会員の活発な交流を促すため，学会としての多様な企画活動を総合的に推進することである．従来のイベント委員会および学会連携委員会の取り組みを引き継ぎ，国内の DB コミュニティを活性化させる各種イベントの企画・運営，ならびに関連学会・研究会との連携強化を図る．SoC や WebDB 夏のワークショップ等の主要イベントの企画・運営支援を行うとともに，DBSJ と他学会の DB 系研究会との協働を促進し，コミュニティの裾野拡大と学術交流の深化に寄与することを目指す．

【活動概要】

（１）ソーシャルコンピューティングシンポジウム（SoC）

DBSJ の研究分野の一つとして，ソーシャルメディアを対象とした研究が多数ある．このソーシャルメディアを対象とした研究交流の場として SoC を開催する．日程は 6 月の１～２日間を予定している．プログラムとして，招待講演および一般講演（DE 研として開催）を実施し，DBSJ 総会との同時開催を予定している．さらに，産学連携イベントとしてパネルディスカッションの開催も検討する．

（２） WebDB 夏のワークショップ

毎年 9 月頃に DBS/DE/IFAT の合同研究会として開催しているワークショップである．DBSJ が協賛し，若手研究者によるワークショップ企画もしくはオーガナイズドセッションを募集すると共に開催支援を行う．具体的には，招待講演者招聘費用等の金銭的サポートを行うと共に，会場手配等の事務手続きを本委員会がサポートする．本活動により，若手研究者の負担を軽減しつつ，若手研究者の研究活動活性化に寄与することを目指す．

（３）若手研究者オーガナイズド研究イベントの研究業績(ジャーナル)化支援

若手研究者が提案・実施する研究イベントを開催した際に，これを提案・実施した若

手研究者をゲストエディタとする DBSJ 論文誌特集号の発行を論文誌編集委員会とも連携しながら支援する.

（4）学生企画イベントの企画・運営支援

DEIM での併設イベントもしくは単独で開催する, 学生企画イベントの企画・運営支援を行う. 本イベントを通じて, 学生自身が学会で活躍できる機会を提供すると共に, 若い世代の要望や意見を把握することで DBSJ 自体の改善を図る. 結果として, 若い世代の会員獲得にもつなげていく.

9．実施事業 6 ：国際連携（定款第 4 条第 1 項 1 号）

担当：国際連携委員会

本事業の目的は，DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため，海外の DB コミュニティとの連携を図ることである．国際連携として，ACM との連携(SIGMOD-J)，および日本と韓国(KJDB)，中国（NDBC，JSPS A3 関連 WS)，タイ間の DB コミュニティとの連携を深める．

【活動概要】

（1） ACM： SIGMOD-J

SIGMOD-J は ACM SIGMOD の日本支部であるが，DBSJ との一体運営を行っている．SIGMOD-J の目的は，海外のトップ Conference に若手研究者を派遣（もしくはオンライン参加）し，そのトピックを DBSJ 会員に対して報告を行うことにより，DBSJ 会員の若手研究者の育成及び DBSJ 会員の最新研究事情の理解である．2026 年度は 3 回の開催（ICDEorWWW，SIGMOD，VLDB）を予定している．

（2） 韓国： Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop （KJDB）

韓国 DB コミュニティと日本 DB コミュニティとの交流を目的とし，毎年日韓交互にオーガナイザーとなり秋に開催している会議である．2026 年度は韓国がオーガナイザーとなり秋頃に開催を予定している．

（3） 中国

China Computer Federation (CCF)の Technical Committee on Databases (TCDB)と 2025 年 6 月に再度締結した MOU に基づいて交流活動を行っている. これまでに中国の National Database Academic Conference (NDBC)への DBSJ メンバーの参加および併設ワークショ

ップの開催， IEEE BigData2025 における併設ワークショップの開催，DEIM2026 における併設ワークショップの開催，などの活動を実施した．これらの活動は JSPS A3 フォーサイトプログラムとも連携しながら実施している．2026 年度は，10 月 16 日～18 日に上海で開催される NDBC への DBSJ メンバーの参加，BigComp2027 等の国際会議における併設ワークショップの実施，DEIM2027 への中国側メンバーの参加などを予定している．

(4)　タイ

タイの DB コミュニティとの連携について，具体的な連携イベントの検討および連携を開始する．

１０．実施事業７：セミナー・講義（定款第４条第１項１号および７号）

担当：セミナー・講義委員会

本事業の目的は, DB 関連分野の各項目について, その道の第一人者ならではの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し，大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である．また，研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を踏まえたデータ利活用推進支援のセミナーを実施する．

【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施.

(1) 講義コンテンツの作成と配信（年３～４回）
(2) 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査
(3) タグ付けや講義間の関係などの整備と公開
(4) 講義コンテンツ検索のためのインデックス作成
(5) コンテンツを利用した勉強会等派生イベント，他の活動(DEIM 等)への接続性の検討
(6) 法的課題や倫理課題を踏まえたデータ利活用セミナーの実施（年１回）

１１．実施事業８：産学連携推進（定款第４条第１項３号）

担当：産学連携委員会

本事業の目的は，産学間，さらには産産間における技術的な情報の共有，人的な交流を促進することで，データ工学に関連する産業全体の発展を目指すことにある．本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ，あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し，それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催，それらの場を通じた交流を図る．

【活動概要】

(1)　プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に，研究を通じて人的交流を図る．

・株式会社 東芝：GridDB Enterprise Edition

(2)　データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）

DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ（以下，IDR）に参画している企業より希望者に対し実データを提供し，実データを使った研究を支援する．本プログラムの参加者は，研究テーマを自由に設定し，例年秋季に開催される IDR ユーザフォーラムにて成果を報告する．また同フォーラムにおける優秀な発表に対して DBSJ 特別賞を授与，副賞として同年度の DEIM に招待，口頭発表の機会も提供する．

(3)　産学マッチング促進プログラム

DBSJ 主催のイベントにて，産学連携を促進するための取り組みを実施する．

①人的交流に関するパネルディスカッション（6 月の SoC2026 を想定）

産学双方の有識者を招いたうえで，インターンシップ等の人的交流を促進するにあたっての課題点，アイデア等を題材としたパネルディスカッションの企画・実施

②学生のキャリア設計に資するイベントの実施（3 月の DEIM2027 を想定）

学生企画と連携をし，主に学生や若手研究者のキャリア設計に資する題材を扱ったイベントの企画・実施支援を行う．

(4)　維持会員向けフォローアッププログラム

DBSJ 維持会員間のノウハウ共有，および DBSJ 維持会員企業の DBSJ コミュニティ活用の加速を目的として，主に新規で DBSJ 維持会員になられた企業を対象としたフォローアッププログラムの設計及び運用を実施する．具体的には，維持会員側のニーズを伺ったうえで，DBSJ コミュニティの研究者とコミュニケーション，関係性構築のサポート，共同研究先・インターンシップアプローチ先の紹介等を行う．

１２．実施事業９：情報システム（定款第４条第１項６号）

担当：情報システム委員会

本事業の目的は，会員データベースシステム，会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて，本会ホームページ，本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い，本会の運営をサポートすることである．

【活動概要】

本会 Web ページや会員データベースの安定的な運用をはかる．

(1) Web・会員 DB の運用・維持

(2) メーリングリストの移行

１３．実施事業１０：広報（定款第４条第１項２号）

担当：広報委員会

本事業の目的は，国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである．

【活動概要】

・News Letter の刊行

(1) 発行巻 8 号：Vol. 19，No. 1～8

(2) 掲載記事計画：

・定期(隔月)6 号：国際会議参加報告および会議開催報告など

・企画①：DBSJ 各賞 受賞者の声

・企画②：若手研究者の声など

(3) 本会 Web ページにおいて News Letter のマルチメディア化を促進する

・Web ページ運用システムの改修の検討

１４．実施事業１１：論文誌編集（定款第４条第１項２号）

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は，論文誌の発行を通じて，データベース，メディアコンテンツ，情報マネジメント，ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り，もって学術，文化，ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである．

【活動概要】
日本データベース学会論文誌（和文・英文）および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行する．

(1) 日本データベース学会論文誌（和文・英文）の発行
(2) 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行
(3) 論文誌に関する課題（投稿数増加，データアーカイブ）について検討

１５．実施事業１２：表彰（定款第４条第１項８号）

担当：表彰委員会

本事業では，功労賞，若手功績賞，上林奨励賞，業績賞を選定し，表彰を行う．

【活動概要】
2026 年度表彰として，例年通り功労賞，若手功績賞，上林奨励賞，業績賞を選定し，表彰を行う．規程や賞金額の見直しなどについて議論する．フェロー制度について検討を継続する．

１６．実施事業 13：ハラスメント防止・DE&I 推進（定款第４条第１項４号及び８号）

担当：ハラスメント防止・DE&I 推進委員会

本事業の目的は，DBSJ 内のダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョンを推進し，ハラスメントを防止するための活動を通して，DBSJ に関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り，各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである．

【活動概要】

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進のためのセミナーやパネルディスカッションを通した啓蒙活動，さらに DEIM を中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施する．

(1) DE&I 推進事業（男女共同参画学協会連絡会への対応を含む）

① DBSJ 主催・共催イベントにおける参加者の希望に応じた託児および情報保障サポートの提供

② 後援予定：IEEE WIE 2026 他

(2) ハラスメント防止委員会

日本データベース学会関連イベントでの行動規範を宣言し Web で公表

行動規範逸脱の通報ルールに関する内規を整備・更新

［第 3 号議案］

3-2. 2026 年度収支予算書

1. 運転資金

2. 国際会議準備金

3. 事業積立金

１．運転資金

2026年度 収支計画書

2026年4月1日～2027年3月31日

一般社団法人日本データベース学会
http://www.dbsj.org/

【運転資金】

（単位：円）

科目	2026年度予算額	2025年度予算額	差額	内訳
Ⅰ．収入の部				
1．論文誌収入	600,000	350,000	250,000	
2024年度論文誌収入	600,000	350,000	250,000	
論文掲載料	600,000	350,000	250,000	
2．会費収入	4,270,000	4,470,000	▲ 200,000	
維持会員年会費	4,000,000	4,200,000	▲ 200,000	非課税、2025年度実績をもとに計上
正会員年会費	270,000	270,000	0	非課税、90名分と想定(2024年度 92名)
3．参加費	17,170,000	14,950,000	2,220,000	
3-1．参加費（DEIM以外）	0	0	0	
3-2．DEIM参加費	12,000,000	10,000,000	2,000,000	課税、一般の参加費を1.2倍程度値上げ．投稿料含む．
3-3．DEIMスポンサー	5,170,000	4,950,000	220,000	課税、2025年度は5,877千円
4．受託研究費	0	0	0	
5．基本財産運用収入	400	400	0	
6. その他	899,000	889,000	10,000	
事業積立金から繰り入れ	599,000	489,000	110,000	会員DBの保守費として事業積立金から繰り入れ
国際会議準備金から繰り入れ	300,000	400,000	▲ 100,000	中韓およびタイ連携費用として繰り入れ
当期収入合計(A)	22,939,400	20,659,400	2,280,000	
前期繰越収支差額	40,506,978	37,544,997	2,961,981	前期繰越収支差額は、2025年度実績値
収入合計(B)	63,446,378	58,204,397	5,241,981	

科目	2026年度予算額	2025年度予算額	差額	内訳
Ⅱ．支出の部				
1．論文誌刊行業務費	0	0	0	
2．表彰	600,000	600,000	0	2025年度実績をもとに計上
3．将来構想	1,200,000			WebDBにおける交流会サポート 100千円 DEIM会員交流イベントサポート 600千円 新規設置研究会運営支援金 100千円×5件
（3．若手活性化）		600,000	▲ 600,000	将来構想に統合
（4．会員交流）		1,200,000	▲ 1,200,000	将来構想に統合
4．DEIM	12,000,000	10,000,000	2,000,000	DEIM参加費と同等。 軽食等の交流イベントサポートは将来構想委員会が負担。
5．企画	1,200,000			SoC運営資金 300千円 学生企画（謝金等） 300千円 若手研究者オーガナイズドセッション費用等 200千円×3件
（9．学生企画）		500,000	▲ 500,000	企画に移管
6．国際連携	1,000,000			SIGMOD-J費用 700千円 BigComp、DEIM 中韓連携WS招待費用 200千円 （国際会議準備金より繰り入れ） タイ等連携費用 100千円（国際会議準備金より繰り入れ）
（7．イベント・国際・学会連携）		1,200,000	▲ 1,200,000	国際連携に移管
7．セミナー・講義	635,000			講師謝金 160千円(20千円×5回+60千円×1回) 動画生成 75千円(15千円×4回) 文字起こしデータ整備(5千円×20回) 動画インデックス作成(200千円×1) セミナー講師旅費(50千円×2)
（2．最強データベース）		575,000	▲ 575,000	セミナー・講義に移管
（8．DBSJセミナー）		515,000	▲ 515,000	セミナー・講義に移管
8．産学連携	300,000	300,000	0	NII IDRユーザフォーラム DBSJ特別賞(DEIM招待費) 280千円 維持会員、DEIMスポンサー企業との意見交換会 20千円
9．ハラスメント防止、D&I	195,000	195,000	0	託児および情報保障サポート 170千円 男女共同参画学協会分担金 15千円 IEEE WIE2026スポンサー 10千円
10．電子情報システム費	1,335,000	1,200,000	135,000	HP保守管理費 396千円 SSL証明書 69千円 ドメイン更新費 5千円 Boxレンタル費 198千円 レンタルサーバー年間利用料 44千円 HPサーバレンタル費 24千円 会員DB保守・改修費 489千円+110千円 （事業積立金より繰り入れ）
11．コンテンツ整備費	0	100,000	▲ 100,000	
12．広報事業費	200,000	200,000	0	Webページ用コンテンツ（バナーイラストなど）のデザイン・作成
13．事務局運営費	4,388,000	4,356,200	31,800	事務局業務委託、人件費、書庫・消耗品、ソフト利用料、事務用品、出張費等
14．会議費	172,000	148,000	24,000	Zoom費用＋会議室費用
15．専門家委託費用	776,000	1,436,000	▲ 660,000	税理士　48千円 x 12、その他200千円
16．租税公課	470,000	470,000	0	
17．新規事業予備費	500,000		500,000	円滑な事業推進やシステム変更のための予備費として確保
18．事業積立金	20,000,000	0	20,000,000	2026年度、事業積立金に20,000千円移管
当期通常支出合計	44,971,000	23,595,200	21,375,800	
19．その他(1)	0	0	0	
20．その他(2)	0	0	0	
当期支出合計(C)	44,971,000	23,595,200	21,375,800	
当期収支差額(A)－(C)	▲ 22,031,600	▲ 2,935,800	▲ 19,095,800	
次期繰越収支差額(B)－(C)	18,475,378	34,609,197	▲ 16,133,819	

２．国際会議準備金

【国際会議準備金】

科目	2026年度予算額	2025年度予算額	差額	内訳
Ⅰ．収入の部				
１．入金	0	4,500,000	▲ 4,500,000	
ADC2025協賛金の返却		1,500,000	▲ 1,500,000	
DASFAA2024協賛金の返却		3,000,000	▲ 3,000,000	
当期収入合計(A)	0	4,500,000	▲ 4,500,000	
前期繰越収支差額	13,915,134	11,315,134	2,600,000	前期繰越収支差額は、2025年度実績値
収入合計(B)	13,915,134	15,815,134	▲ 1,900,000	
Ⅱ．支出の部				
１．国際会議支援金	300,000	400,000	▲ 100,000	
国際連携（KJDB,中国対応）	300,000	400,000	▲ 100,000	中韓連携、タイ連携費用として運転資金に繰り入れ
当期支出合計(C)	300,000	400,000	▲ 100,000	
当期収支差額(A)－(C)	▲ 300,000	4,100,000	▲ 4,400,000	
次期繰越収支差額(B)－(C)	13,615,134	15,415,134	▲ 1,800,000	10,000千円を定期預金とする

３．事業積立金

【事業積立金】

科目	2026年度予算額	2025年度予算額	差額	内訳
Ⅰ．収入の部				
１．当該年度積立金	20,000,000	0	20,000,000	
２．入金	0	0	0	
当期収入合計(A)	20,000,000	0	20,000,000	
前期繰越収支差額	9,758,167	10,247,167	▲ 489,000	前期繰越収支差額は、2025年度実績値
収入合計(B)	29,758,167	10,247,167	19,511,000	
Ⅱ．支出の部				
１．事業積立金費用	0	0	0	
２．会員DB整備事業費	599,000	489,000	110,000	会員DB改修費、保守費として運転資金に繰り入れ
当期支出合計(C)	599,000	489,000	110,000	
当期収支差額(A)－(C)	19,401,000	▲ 489,000	19,890,000	
次期繰越収支差額(B)－(C)	29,159,167	9,758,167	19,401,000	25,000千円を定期預金とする